

令和 6 年度

上牧町特産品開発支援補助金審査判定委員会(第 1 回)

議 事 録

日 時 令和 6 年 6 月 20 日(木) 午後 3 時 00 分から
場 所 上牧町役場 2 階 第 2 会議室
委 員 鶴谷将彦委員、中村智宏委員、大西孝則委員、中川恵友委員(総務部長)、
細川夏人委員(都市環境部まちづくり推進課長)
事 務 局 中本課長、土井課長補佐、高野係長、高見主事

◆開会

◆委嘱状の交付および委員長・副委員長の選任

◆補助金交付の適否の審査・判定

【申請事業①】

補 助 区 分:特産品を新たに開発する事業
事 業 者 名:やすむら工房
事 業 名:久ちゃんの万能ソースの開発事業
事 業 費:375,500 円
補助対象事業:325,500 円
補 助 金 額:200,000 円

<プレゼンテーションを受けての質疑応答>

委員会:この製品に使用する原材料となる野菜は、どこで生産されたものを使用する予定か。

申請者:自家生産をしているので、そこで収穫された野菜を使用するほか、知り合いにも菜園をしている人がいるのでその方が収穫された野菜・果実も使用する予定。基本的には、上牧町内で収穫されたものを使用する予定である。こだわりとしては、自家製の無添加のものを使用したいと考えており、この事業を軌道に乗せることができた場合は将来的に作業所のようなものを作りたいと考えている。

委員会:品質面について、書類内に「耐熱ペットボトルの購入」とあるが、昨今の異常気象等により配送の際の温度管理も重要となってきているが、その点はどのように考えているのか。

申請者:今年の3月から何度か試作を行っており、条件に合う耐熱ペットボトルに試作したドレッシングを詰め替え、3か月後、4か月後、6か月後というように時間経過による品質変化の経過観察を行っているところである。

また、このドレッシング生産を始めるにあたり知り合いに長崎県においてドレッシングで町おこしに成功した方がいるので、その方のアドバイスを仰ぎながら製作している。アドバイスとしては、品質を損なわず製作する方法として材料や調味料を80℃で加熱し、余熱になったら容器に入れてしっかりと蓋を締めることであると聞いたので、それを実行し試作を行っている。

委員会:完成した際には検査機関等で製品の検査を受けてもらいたい。

申請者:そのつもりである。私たちも一番細心の注意を払っているのが品質管理で、慎重に作業を行っている。

委員会:この製品は常温で保存できるのか。

申請者:今、試作品を冷蔵・常温に分けて保存を行っているがどちらでも大丈夫である。アドバイスをしてくださっている長崎の方の製品は開封前常温保存しているので、同じように開封前は常温、開封後は冷蔵保存でしていこうと考えている。

また、耐熱ペットボトルの保存の向きや段ボール箱の大きさなど、製品にとって何がベストかを試行錯誤しているところである。

委員会:この製品について、今まで販売実績等はあるか。

申請者:ない。

委員会:今まで販売実績がないということだが、仮に天候不順等によって材料となる野菜等が手に入れられなかった場合の代替手段はあるのか。

申請者:確保している。材料がないから生産がストップということはない。メインの材料として、玉ねぎを使用しているが基本的には自家生産したものを使用しており、もし自家生産分が不足すれば知り合いから融通してもらおうように取り付けている。

委員会:一緒に活動を行うメンバーの中にこのような活動を行ったことがあり、ノウハウを持っている方はいるか。

申請者:一緒に活動を行うメンバーの中にはいないが、一番参考にしているのは自分の職場の先輩の知り合いの方に長崎県でドレッシング作りに成功した方がいるので、その方を参考・見本にしている。

委員会:その長崎県の方の製品は、全国で販売されているのか。

申請者:ネットやスーパーで販売されている。

委員会:通年で安定した生産は可能か。

申請者:受注生産方式を取ろうと考えているので、注文が入り次第生産が可能である。

委員会:受注生産ということは、ふるさと納税の申し込みがあってから生産するということか。また、ふるさと納税の返礼品以外の販路はあるのか。

申請者:今のところふるさと納税以外の販路は考えていないが、構想として、このドレッシングを返礼品として出すことによって口コミ等で良さが広まり道の駅に置いてもらうことが出来たりするのではないかと考えられる。

委員会:考えは理解した。だが、先に道の駅に置いてもらい、そこで評判を呼び、ふるさと納税の返礼品として登録することになったという方が製品を売る流れとしては多いと思うので、ふるさと納税の返礼品のみとこだわるのではなく、今後様々な施策を行っていく中で市販も実施してほしい。

申請者:承知した。

委員会:第3号様式『収支予算書』内の補助対象経費に様々な記載があるが、この補助金は今ある製品をランクアップさせるためにお金が必要であるという団体に支給するものであるが、趣旨は理解されているか。

申請者:理解している。

委員会:上牧町内には様々な販売チャネルがあるので、口コミ等で広げ訴求を図ってほしい。

申請者:承知した。

委員会:「やすむら工房」という団体はどのような経緯で結成されたのか。

申請者:メンバーは4、5人で、作業場所は自宅のキッチンである。今まで自分たちで食べるためにドレッシングを作っていたが、この度、製品化したいと思い、補助金の申請を行った。

委員会:私の知り合いで高知の山の中で「食べるラー油」を開発し会社を興した方がいるが、その方はまず地元のスーパー等で実食形式で売り、そこから京阪神の店にどんどん販路を拡大していき、今は京阪神のデパートでも取り扱いがある。また、別ルートとしては、各都道府県が運営している東京の物産館にも置いていたりするほか、実食形式で販売を行ったときに紙に自分たちの団体名や活動内容をまとめたものを配布するなどをしていたと聞いているので、そのようなことも検討されてはどうか。

申請者:活動内容等をまとめたものを商品につけることを考えている。

委員会:ドレッシングに紹介の紙をつけて販売するということは、他の商品でも行われているので、京阪神のデパートや道の駅、物産館にはライバルとなる商品を視野に入れながら、ふるさと納税の返礼品として広めていってほしいと思う。

申請者:奈良県内にそのような場所はありますか。

委員会:奈良市の三条通や JR 奈良駅の高架下にある「うまいものプラザ」や、各種道の駅でも取り扱いがあると思う。また、町内のレストランや飲食店に声をかけて使ってもらおうという手もある。せっかく良いものを作っているので、ワンランク上のものを目指して設備も整えて、地元の人を巻き込みながらやってほしいと思う。

<各委員からの意見・審査結果>

(審査結果)

内容を確認した結果、適正であると認められた。

【申請事業②】

補助区分:特産品を新たに開発する事業

事業者名:株式会社 青春

事業名:ミニクッキー缶開発事業

事業費:350,000円

補助対象事業:350,000円

補助金額:200,000円

<プレゼンテーションを受けての質疑応答>

委員会:全体の店舗数はどれくらいあるか。

申請者:2店舗あり、奈良市内に1店舗あるが『週末シトロン』に関しては販売のみを行っており、そちらの店舗では『奈良シトロン』というお土産物用に開発した、その店舗限定のものを販売している。製造はどの製品もすべて上牧町の店舗で行っている。

委員会:多くの店舗を持つチェーン店では品質管理を行っていても店舗によって味が違うといったことが起こったりしているが、そういったことはないか。

申請者:上牧町の店舗で製造したものを奈良市内の店舗に送っているのですが、そのような問題は生じない。

委員会:今回、クッキー缶の製造ということであるが、それぞれ製造はどこで行うのか。

申請者:上牧店の1階はカフェ、2階は事務所となっているので、クッキーの製造はカフェに併設されたキッチンで行う。2階の事務所にはクッキーを詰める作業部屋も設けているので、そこで梱包作業を行う。クッキー缶そのものについては、町外の外部の業者に発注する予定である。

委員会:店舗を王寺町のほうに移されると聞いているが、販売場所として上牧町の店舗は残す予定か。

申請者:今現在カフェを置いている上牧の店舗は『週末シトロン』をメインに据えた小売り専門の店にする予定で、カフェ機能を王寺町の新店舗に移設予定である。また、小売り専門の店の名前を『週末百貨店』というものに改め製造・販売をするほか、ゆくゆくは雑貨の販売も行いたいと考えている。

委員会:第2号様式「事業計画書」内に「新たに開発するクッキー製作に必要なミキサーを購入し…」とあるが、今あるクッキーとはまた別のクッキーを製作するというものでよいか。

申請者:今現在も別製品のクッキーを製造しているが、今現在使用しているミキサーのみであると新製品のクッキーを製造するキャパシティが無く、新たにミニ缶用のミキサーを購入しないと厳しい。

委員会:今回新しい製品の開発ということなので、せっかくならば上牧町にまつわる新たなクッキーの製作をお願いしたいと思う。先ほどの話を聞いていると奈良市の店舗のみに置いているものがあるみたいなので、上牧町の店舗にのみ置くものというのも作っていただきたい。

申請者:検討したい。

委員会:今回、この補助金を使用し新たな返礼品を作るということは、上牧町にまつわる何かというものは入れてほしいと思う。クッキーの材料に上牧町産のものを使用するというのは難しいと思うので、パッケージのデザインを上牧町仕様にするほか、パッケージにシールを貼るといったことも可能ではないかと思う。ナナツモリさんのブランドイメージというものはあると思うが、そこに上牧町のエッセンスを少し加えてもらった方がいいと思うが、実現可能であるか。

申請者:モチーフとしてささゆり等を入れることを、イラストレーターさんと相談したいと思う。せっかく新しく製作するのであれば、上牧町ならではのものを作りたいという気持ちはある。

委員会:上牧町は歴史ある町なのでモチーフにできるものが多くあるので、ぜひモチーフを取り入れてほしい。

<各委員からの意見・審査結果>

(意見)

- ・最終的には返礼品となるものなので、外のパッケージ・中身のクッキー、どちらにも「上牧町」のエッセンスを入れてほしい。
- ・ブランドイメージがあり、上牧町のモチーフを入れることが難しいことも考えられるので、この補助金で開発した製品に関しては、クッキー自体に何か新規性が感じられるようにしてほしい。

(審査結果)

内容を審査した結果、以下の条件付きで適正であると認められた。

- ・ミニクッキー缶の開発にあたっては、パッケージ等において「上牧町らしさ」が感じられるような創意工夫を求める。また、中身のクッキーについても新たな種類(味)を追加するなど、新規性を求める。

◆その他

- ・追加募集を行うことと、来年2月に行う予定の審査判定委員会では申請団体から直接説明をしていただくことについて説明を行った。

◆閉 会